中上級日本語学習者の文献講読のための読解力向上の実践
――NIEの活動による学びを通して――

山本菜穂子

要　旨

総合政策学部は、マルチカルチュラルなキャンパスを目指し、主にアジア諸国・地域から留学生を受け入れている。日本語科目は、日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと3つのレベルに分かれ、アカデミック・ジャパニーズの養成を目指した授業が行われている。「日本語Ⅲ（読解）」クラスでは、学科科目の履修を目指した専門的な文献講読に役立つ知識、読解力を習得することを目標とし、「文構造の把握による内容理解を重視した授業」、「内容重視により思考を深めることを目指した授業」を行っている。

筆者が担当する前者の授業においては専門的な文章を理解するために必要な背景知識となるテーマを読解後、的確な内容理解を深めるために要約文を作成している。さらに2023年春学期からはテーマに関連したNIE（Newspaper in Education）の学習活動を取り入れている。

本稿では授業で学習した読解教材の本文の内容と、そのテーマに関連した新聞が報じる現代社会の諸事象を照らし合わせ、日本語学習者がどのように学びを深めることができたか、また課題について実践報告する。

キーワード：中上級日本語学習者、文献講読、読解力、NIE、現代社会の諸事象

1. はじめに

総合政策学部では、多様化し複雑化する社会に対応できる実学的素養を備えるとともに、確かな歴史観に立って多様な価値観を理解できる能力を身につけた人材を、問題発見・解決というアプローチにより教育することを目的としている。留学生を対象に日本語教育も含めて4年間で卒業できるカリキュラムを設けており、日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲの3つのレベルに分かれた日本語プログラムが提供され、日本語Ⅰは「文法」・「読解」・「作文」・「運用」、日本語Ⅱ、日本語Ⅲは、それぞれ「読解」・「表現技術A（口頭表現）」・「表現技術B（文章表現）」・「総合」といった科目で構成され、アカデミック・ジャパニーズの養成を目指した授業が行われている。「日本語Ⅲ（読解）」の科目では、「文構造の把握による内容理解を重視した授業」（文構造の学習に重きを置きつつ、専門的な文章を理解するために必要な背景知識となるテーマを選び、内容把握を行う授業）と「内容重視により思

考を深めることを目指した授業」（内容・情報の理解・獲得に第一義的な焦点を置き、思考を深めることを目指した授業）を2017年度から2名の教員が行っている。

筆者が担当する「文構造の把握による内容理解を重視した授業」では、まず、日本語Ⅰ・Ⅱで学んだことをさらに発展、定着させるために新出語彙、文型練習といった文構造の学習に重点を置きつつ、各トピックの読解後、内容をどのぐらい理解できたか把握するために要約文を作成する活動を行っている。2023年春学期からは総合政策学部の国際政策、公共政策、環境政策など学科科目を履修する際の文献講読の理解に必要とされる実践的な知識、技術をさらに習得するために各トピックの精読後、関連した新聞記事を読み、質問づくりを行うNIE（News in Education）の学習活動に取り組んだ。本稿では、このような活動が日本語学習者にとって読解文の理解を深めるためにどのような学習効果があり肯定的に取り組むことにつながるのか、また、問題点、今後の課題について考察する。

2. 総合政策学部「日本語Ⅲ（読解）」―文構造の把握による内容理解を重視した授業

総合政策学部の「日本語Ⅲ（読解）」の科目では、「1. 専門科目を履修する際に必要とされる資料を読むための知識と実践的な技術が習得できる、2. 専門的な文献に対応できるようになる」ことを到達目標にしている。そのため、環境問題、社会問題、国際関係、科学技術、政治経済、文明、文化、化学工業、といった様々な分野からテーマを扱っている。

筆者が担当する「文構造の把握による内容理解を重視した授業」では、本学部での専門的な文章を理解するために必要な背景知識を学習者が習得できるように『大学・大学院　留学生の日本語①読解編』、『大学・大学院　留学生の日本語②論文読解編』、『生きた素材で学ぶ新・中級から上級への日本語』の読解教材からテーマを選び、日本語学習者の内容把握の力を伸ばす授業を行っている。国際関係、政治や経済、環境問題などの現代社会の諸問題に興味や関心を喚起するために扱われたトピックは、「睡眠時間―短眠と長眠」、「地球温暖化」、「文明はどのように伝わったか―1『茶』」、「衝動買いを誘導する」、「おいしい食感の理由」、「フリーター問題」、「若者の自己評価」であった。授業でこれらの教材を使用することにより、専門分野での文献講読に不可欠な論理的思考による理解・表現能力の養成を目指している。授業では文献の内容を的確につかんだ要約文を作成するためには文章構造の理解が重要であるため、アウトラインの捉え方に焦点をあわせ「個々の活動」、「ピア・ラーニング」、「クラス全体での話し合い」の三段階の学習過程を通し、各トピックの文章の論理的構造や大意を把握し必要な情報を読み取る実践的な練習に取り組んできた。このような活動で多角的な視点から文章構造の理解が進むように工夫、改善を行ってきた。

総合政策学部が掲げる目標は「多様化し複雑化する現代社会の諸問題を多角的な視点から認識・分析し、解決に導く能力とスキルを養うこと」である。それを達成するために2023年春学期からは、各トピックに関連した新聞記事時事のニュースや論説の精読、質問づくりを取り入れている。

3. NIE（Newspaperin Education）の活動と「質問づくり」の教育効果

新聞記事を読んで内容を簡潔にまとめたり、様々なメディア（テレビ、インターネット等）からのニュースを他の人に伝える等、日常生活において読んだり聞いたりした内容を短くまとめて伝える活動は重要な言語活動の一つとなっている。大学の学科科目では教科書や資料、文献を調べて講読した後、それについて発表の原稿を書き、レポートや論文を執筆する際に内容を的確に捉え、文章を簡潔にまとめる力が求められる。一般社団法人日本新聞協会のHPには、NIE（Newspaper in Education）の呼び名は世界中で使用され、1930年代にアメリカで始まり、日本では85年に静岡で開かれた新聞大会で提唱され、新聞界と教育界とが協力して学校などで歴史、国語、社会科学、数学、経済、作文、ジャーナリズム論、政治といった科目を問わず新聞を教材として活用する活動であると記されている。

新聞記事の強みは、国際状況、政治、経済から文化まであらゆる分野の情報が網羅され、その一つ一つの記事が複数の目による厳しいチェックを経て世に出ている、信頼性の高いメディアであることである。筆者が担当する授業で扱った7つのトピック（「睡眠時間―短眠と長眠」、「地球温暖化」、「文明はどのように伝わったか―1『茶』」、「衝動買いを誘導する」、「おいしい食感の理由」、「フリーター問題」、「若者の自己評価」）は、世界的に行われているNIEの活動のテーマに含まれており、関連記事は現代社会の諸事象と内容を照らし合わせ、さらに問題意識を持って考える力を養成することにつながると思われる。読解教材では、本文の後に正誤問題や穴埋め問題、内容に関しての質問に回答する形で内容を理解したかどうか練習問題に取り組む活動が多い。加藤（2020：68）は、新聞講読の科目でワークシートの活用し「記述式の課題に答える過程、つまり必要な情報を文の形にするために自分で構成をする過程においてワークシートが学習者に、文章の読み取りを修正させたり、理解を深めさせたりする役割がある」と考察している。

では、新聞記事の内容を的確に捉えるために、また、理解できたかどうか振り返るためには、どのような方法があるのだろうか。ダン・ルース（2017：32–33）は、多様な思考力を磨く方法として「質問づくり」の活動をあげ、以下の3つの思考力（「発散」、「収束」、「メタ認知」）を練習することによって多種多様な知識、能力、学力などが身につくと述べている。

① 発散思考―多様なアイディアを考え出し、幅広く創造的に考えられる能力
② 収束思考―答えや結論に向けて、情報やアイディアを分析したり、統合したりする能力
③ メタ認知思考―自分が考えたことや学んだことについて振り返る能力

そして、学習者は質問についてより深く考えたり、質問を洗練したり、質問の使い道の優先順位を決めたりして、「優先順位を決める能力」―たくさんの選択肢を考えたうえで「大切なものを選ぶ（逆に言えば、大切ではないものは切り捨てる）力」を養うことができると指摘している。

堀・大隈・世良（2018：59）は、中級日本語学習者を対象に質問づくりの手法を取り入れた読解授業を実践し、「質問の優先順位を自ら考えさせるなど、質問づくりそのものに対するメタ認知思考を刺激することで、課題設定をする力を養える」と指摘している。また、森山（2016：18–19）は、上級日本語学習者を対象に新聞記事を教材として「話題について自分の考えを深めること、読解力、批判的思考力、要約力の育成を図ること」を目的にし、LTD（Learning Through Discussion）に基づく授業方法を実践した。新聞記事を教材として利用したことで時事問題への関心もさらに高まり、授業外でも友人や日本人とニュースについて話す様子が見られたと述べている。

4.「日本語Ⅲ（読解）」クラスでのNIE活動の実践

授業では、まず、新聞記事の形式に慣れるために7つのトピックのうち、3つのトピック（「睡眠時間―短眠と長眠」、「地球温暖化」、「おいしい食感の理由」）では読解教材を精読した後、関連の新聞記事に取り組んだ。その後さらに活動を発展させ「フリーター問題」の本文を精読後、関連の新聞記事の文章構造や内容把握、そして、それに加えて質問づくりの活動を行った。2017年度から筆者が担当して以来、このトピックに対しては「自国とかなり状況が違うことがおもしろかった。」と学習者の興味・関心が高く、「フリーターの問題の現状と解決策がわかるようになった。」、「フリーターというのは聞いたことがあったが、その背景ははじめて知った。以前はただ若者が自由に働きたいからだと思っていた。」、「フリーターと正規職員の関係を知った上で、現在日本の労働現状もわかった。」（山口・山本2019：68）と、日本の労働問題について新たな知識を得たというコメントが多くみられた。また、クラスの中でレディネスのばらつきがかなりあり、読解教材だけでは現状をふまえた上での解決策など日本の雇用問題について考える知識が不十分な様子が見受けられた。

よって、2023年春学期では「フリーター問題」の読解教材の本文でグローバリゼーショ

ン、サービスの経済化などにより労働市場の需要側、すなわち企業の雇用行動を変化させ、正規雇用者を非正規雇用者で代替する社会的な背景や問題点、労働市場の供給側の若者への支援策について理解を深めた後、現代では働き方改革として様々な働き方が提唱されていることにより「週休3日制　柔軟な働き方進むか」（中日新聞2023年2月5日朝刊）の記事を関連記事として授業の中で取り上げた。授業の進め方としては以下の通りである。表1は、学習者がNIE活動で作成した質問と回答の例をまとめたものである。

(1) 授業で学んだトピック、テーマと関連付けて、現代社会の特色が感じられる新聞記事の新出語彙、表現を各自調べ整理する。学習者がわからない点について要点をまとめた後、各自精読。
(2) クラス全体でも精読し、疑問点についても検討し理解を深める。
(3) 現代社会で起きている課題などに着目し、大切な事柄について質問づくり、その後自分自身で回答する（知識の再構築）。
→記事の内容の把握（必要な情報を確実に取り出す）
(4) ピア・ラーニングでお互いの質問に回答し、その後、自身の回答と比較検討し、相違点についてなぜそのようなことが起こったか話し合う。

表1　学習者がNIE活動で作成した質問と回答：例

学習者がNIE活動で作成した質問	学習者の回答
・選択的週休3日制とは何か。	・働き手の希望に応じて週休3日を選べる制度である。
・経営側としての柔軟な働き方の目的は何か。	・社員の満足感が高くなって、その上で仕事の効率も向上できる。
・週休3日制を通じてどのような習慣ができたと言っているか。	・効率化を考えて動く習慣ができた。
・週休3日制によって企業は何を期待しているか。	・企業側は、多様な人材の獲得、業務効率化を期待している。
・週休3日制について何の懸念があるか。	・給料を減らし、勤務日の労働時間が増えるという懸念がある。
・何の取得目的が幅広くなっているか。	・将来のキャリアを見据え、IT関連の知識を習得すること。
・愛知県内の印刷会社の人事担当者は週休3日制に対してどのような問題があると述べたか。	・問題については勤務シフトの組み替えや労務管理が煩雑になり、全社的な導入は難しいことだ。

5.「日本語Ⅲ（読解）」クラスでのNIE活動の振り返り

日々新聞が報じる現代社会の諸事象と、授業で学習した内容とを照らし合わせ、学びを深めることができる活動は中上級日本語学習者にとって非常に有用な学習となっていた。学期末には、授業で取り組んだ新聞記事に関して、読解教材の本文と比べて、どんな点が難しかったか、また、面白かったかについて授業アンケート（無記名）を行った。表2は「読解教材の本文に関連した新聞記事を読んだ時、本文のトピックと比べてどんな点が難しかったか、また、どんな点が面白かったかについて」まとめたものである。以下、考察をしたい。

まず、「本文と違う点は漢字と縦読みがあまり慣れていないから難しかったと思う。」、「新聞記事だから漢字や縦書きが読みにくかった。」、「初めて見る学問的な単語が難しくて縦読みも難しかった。」、「難しかったことは見たことがない言葉が多く、文の並び方が縦にして本文より読みにくい。」と新聞記事特有の縦書きについて戸惑うコメントが多くみられた。授業では新聞記事を配布し初読した際、記事のレイアウトに慣れず記事を違う欄に飛び越えて一貫しない内容に気づかないまま読む学生が数名いた。近年、電子版の横書きの新聞記事が普及、紙面の一部コラムでも横書きに配置されたものも見受けられ、縦書きの記事が減少しつつある。しかし、学部の授業や論文作成の時、一次資料として様々な情報を得ることができる新聞記事を読む機会も多いので、日本の新聞記事特有の割り付け（配

表2　読解教材の本文に関連した新聞記事を読んだ時、本文のトピックと比べてどんな点が難しかったか、また、どんな点が面白かったかについて：例

・本文と違う点は漢字と縦読みがあまり慣れていないから難しかったと思う。しかし、記事を読んだ後に自分で質問を書いて友達と交換して答えるのは読んだ記事を全体的に理解しなければならないので、それがいい方法だ。
・正直、新聞はこわいと思う。読めない。また、意味がわからない漢字が溢れ、複雑な言葉もある。しかし、漢字の読み方を確認した後、先生の説明を聞いた後、新聞記事がわかりやすく、おもしろくなる。特に、週休3日制度があるのは全く知らなかった。最もおもしろいと思う。
・新しい言葉や漢字が多いので、読みにくくて、分かりにくい。しかし、まず自分で調べて、先生が後は説明するので分かるようになった。その結果、自分の言葉の範囲を広くすると思う。
・難しかったことは見たことがない言葉が多く、文の並び方が縦にして本文より読みにくい。興味があることは記事の中に理解しやすい役立つ実例が多く、本文をもっと理解するように役立つ。
・初めて見る学問的な単語が難しくて縦読みも難しかった。本文の内容に関して新しい知識を得ることができてよかった。
・新聞記事だから漢字や縦書きが読みにくかった。
・もっと深く知ることによって、理解度が高くなった。
・新しい言葉が多くてよかったが、質問を作るのが難しかった。
・脳内の仕組みが他のトピックと比べて難しかった。
・本文と比べると割と簡単だと思う。むしろ、充実したと感じた。

置、題字、見出しのつけ方等）や基礎的な知識を精読前に事前に習得する必要性が感じられた。

語彙、表記に関しては「正直、新聞はこわいと思う。」、「新しい言葉や漢字が多いので、読みにくくて分かりにくい。」と、難しさを感じるコメントがあった。特に非漢字圏の学習者にとって難しい漢字が羅列している新聞記事は心理的にストレスを感じる場合が多いと思われる。学習者は読解の教材でまず日本語Ⅰ・Ⅱで学習した基礎的な文法知識を発展させ、学習者にとって理解が困難と思われる新出語彙や表現、読むための文法を学んでいるが、それは日本語学習者が学びやすいように洗練されたものである。特に漢字圏と非漢字圏の学生が混在し様々なレベルの学生が学ぶクラスでは新聞記事を精読する前に新聞記事で使用される分野の新たな語彙や表現（学術的な用語等）、文法、文章構造の学習や記事の背景の説明を念入りに行い、壁を乗り越えるための指導が必要である。「読めない、また、意味がわからない漢字が溢れ、複雑な言葉もある。しかし、漢字の読み方を確認した後、先生の説明を聞いた後、新聞記事がわかりやすくおもしろくなる。」、「まず、自分で調べて、先生が後は説明するので分かるようになった。その結果、自分の言葉の範囲を広くすると思う。」というコメントは、学習者が難しさを乗り越えれば、読む楽しさを感じられるようになり、学習意欲が高まることを表している。

面白かった点については、「特に週休3日制度があるのは全く知らなかった。最もおもしろいと思う。」というコメントがあり、読解教材の内容に加え、実社会での新たな就労環境について知識が広がったことが表されていた。また、「興味があることは記事の中に理解しやすい役立つ実例が多く、本文をもっと理解するように役立つ。」、「本文の内容に関して新しい知識を得ることができてよかった。」、「もっと深く知ることによって、理解度が高くなった。」と読解教材で学習した知識に加えて新たな実践的な知識習得があり、それにより教材の本文の理解度も進んだ様子が見られた。

記事の内容について質問づくりをし、ピア・ラーニングでお互いの回答を比較検討する活動に関しては、「新しい言葉が多くてよかったが、質問を作るのが難しかった。」と、記事の内容把握に難しさを感じるコメントがあった一方、「記事を読んだ後に自分で質問を書いて友達と交換して答えるのは読んだ記事を全体的に理解しなければならないので、それがいい方法だ」と活動の意義を感じる感想が出ていた。授業に対して学習者の積極的な姿勢につながる活動となっていた。

6. おわりに

2023年春学期において読解教材の本文の内容理解をさらに深めるために関連したNIE（News in Education）の学習活動を取り入れた。地球温暖化や民族間紛争、国内では少子

高齢化など、現代社会には解決が急がれている問題が山積している。総合政策学部では、これらの様々な要因が絡み合って発生した問題を分析し、解決策を立案・実践し、社会の仕組みや機能を理解するために課題を分析する力と解決に向けた政策立案のための知識や手法を身につけるための国際政策、公共政策、環境政策に関する科目が配置されている。これらの3つの政策コースで扱われるトピックに対応できる基礎知識と基本的な用語を学ぶことも日本語科目の重要な到達目標である（山口・山本2019：64）。新聞記事は取材後、社内での検討を通して多くの人たちによって練り上げられたものであり、学習者が思考を鍛えるのに適しているものである。

質問づくりでは、開いた質問（説明を必要とするもの）が閉じた質問（「はい」か「いいえ」ないし一つの単語で答えられるもの）（ダン・ルース2017:137）より多くみられた。今後は「質問のタイプを転換するという経験をすることで、質問づくりや情報収集、そして分析的思考により磨きをかけること」（ダン・ルース2017：136）で記事の内容に深く関わる質問づくりができ、ピア・ラーニングの活動で活発な意見交換ができるよう工夫、改善していきたいと思う。

参考文献

アカデミック・ジャパニーズ研究会編著（2015a）『改訂版大学・大学院留学生の日本語①読解編』アルク

アカデミック・ジャパニーズ研究会編著（2015b）『改訂版大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』アルク

加藤奈津子（2020）「中級の読解指導の試み：新聞講読科目の例を通じて」『日本語と日本語教育』48号pp. 55–69

鎌田修・ボイクマン聡子・冨山佳子・山本真知子（2016）『生きた素材で学ぶ新・中級から上級への日本語』ジャパンタイムス

ダン ロススタイン・ルース サンタナ著、吉田新一郎訳（2017）『たった一つを変えるだけ―クラスも教師も自立する「質問づくり」―』

堀恵子・大隈紀子・世良時子（2018）「質問作りの手法を取り入れた読解授業」『日本語教育方法研究会誌』24巻2号pp. 58–59

森山仁美（2016）「上級日本語学習者への『LTD話し合い学習法』の適用―新聞記事を利用した読解授業―」『日本語教育方法研究会誌』23巻1号pp. 18–19

山口和代・山本菜穂子（2019）「学科科目の履修を目指した読解授業の実践―総合政策学部『日本語Ⅲ（読解）』―」『南山大学外国人留学生別科紀要』2号pp. 63–74

「教育に新聞を」https://nie.jp/about/　一般社団法人日本新聞協会（2023年8月20日閲覧）

中日新聞「週休3日制　柔軟な働き方進むか」https://www.chunichi.co.jp/article/630918（2023年8月28日閲覧）

南山大学総合政策学部ホームページhttps://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/pp/policy.html（2023年8月28日閲覧）

Cultivating Pre-advanced JSL Learners' Reading Proficiency for academic subjects:Learning approaches through NIE activities

Naoko YAMAMOTO

Abstract

To help foster a multicultural campus, the Faculty of Policy Studies at Nanzan University accepts foreign students, mainly from Asia. The Faculty's Japanese language program is divided into three ascending Japanese proficiency levels (Japanese I, II and III) to help these students develop their academic Japanese skills. The Japanese III 'reading' course adopts two approaches - one is to cultivate reading proficiency through understanding the structure of the reading, and the other is content based, deepening students' knowledge and thinking.

In the structure part of the classes, themes are chosen so students can acquire background knowledge necessary to understand academic sentences. After reading a passage, learners summarize the information to develop their precise understanding of the content. Moreover, from the 2023 spring semester, NIE (Newspaper in Education) activities related to the themes has been used.

This paper reports on how such NIE learning activities deepen students' academic knowledge and skills to read academic papers, by comparing the contents of the reading with the present circumstances of modern society.

KeyWords：pre-advanced JSL learners, academic reading, reading proficiency, NIE, contemporary social issues